



堺化学工業株式会社

堺化学工業株式会社

2026年3月期 第3Q 決算説明会

2026年2月12日

イベント概要

[企業名]	堺化学工業株式会社
[企業 ID]	4078
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2026 年 3 月期 第 3Q 決算説明会
[決算期]	2026 年度 第 3 四半期
[日程]	2026 年 2 月 12 日
[ページ数]	14
[時間]	15:30 – 15:52 (合計：22 分、登壇：13 分、質疑応答：9 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	50 名
[登壇者]	1 名 執行役員 大釜 信治 (以下、大釜)

登壇

司会：それでは定刻となりましたので、堺化学工業株式会社、2026年3月期第3四半期決算説明会を開催いたします。本日はお忙しい中お時間を頂戴し、誠にありがとうございます。本日はウェブ配信のみの開催となっております。

本日の予定ですが、まず担当役員の大釜よりご説明させていただいた後、質疑の時間を16時頃までを目安に設けさせていただきます。なお、本日のご説明の資料については、決算発表と同日開催ということもあり事前にお送りしておりませんが、画面をご覧くださいながらお聞きいただければと思います。なお、先ほど弊社ホームページでも同じ資料を開示しておりますのであわせてご参照ください。

それでは早速ご説明に入らせていただきます。では大釜さんお願いします。

大釜：はい。皆様こんにちは。堺化学工業 IR 担当の大釜でございます。本日はお忙しいところ誠にありがとうございます。堺化学工業株式会社 2026年3月期第3四半期の決算について説明いたします。

本説明のポイント

26.3期 第3 四半期 累計	<ul style="list-style-type: none">➤ 計画比：概ね計画通りに推移 化粧品材料や樹脂添加剤の不振を電子材料やその他事業の販売数量増加でカバー➤ 前年比：減収ながら14.7%の増益を確保 電子材料が引き続き堅調に推移し、その他事業での価格改定や販売数量増加➤ 当第3四半期に化粧品材料にかかる減損損失24億円を計上
26.3期 通期 計画	<ul style="list-style-type: none">➤ 期初計画通り、65億円の営業利益を見込む 化粧品材料での伸び悩みはあるが、電子材料やその他事業が利益を牽引 親会社株主に帰属する当期純利益は減損損失の計上により25億円下方修正
株主 還元	<ul style="list-style-type: none">➤ 中期経営計画の基本方針（株主還元総額80億円以上）に変更なし➤ 期初計画の130円/株から15円増配し、145円/株に増額修正（配当総額22億円）➤ 自己株式91.4万株（25億円）を取得し、これを含む100万株を消却済み
中期 経営 計画	<ul style="list-style-type: none">➤ R O E：化粧品材料事業の減損処理により一時的な低下は避けられないものの 27.3期のROE8%達成に向け、あらゆる選択肢を排除しない➤ 営業利益：外部環境の変化や化粧品材料での収益拡大遅延による影響等を考慮し 27.3期の計画について精査中（2026.3期決算にて開示予定）



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

2

本説明のポイントをスライドに記載しております。

2026年3月期第3四半期累計の実績については、概ね計画通りに推移をしております。化粧品材料や樹脂添加剤の不振を電子材料やその他事業での販売数量増加でカバーいたしました。前年比では、減収ながら14.7%の増益となりました。電子材料が引き続き堅調に推移しており、その他事業での価格改定や販売数量増加が寄与しました。一方、当第3四半期に化粧品材料事業に係る減損損失を24億円計上しました。これについては後ほど詳細を説明します。

2026年3月期通期予想ですが、期初計画通り65億円の営業利益を見込んでおります。化粧品材料での伸び悩みはあるものの、電子材料やその他事業が利益を牽引する見込みです。親会社株主に帰属する当期純利益は、減損損失の計上により25億円下方修正しております。

株主還元につきましては、中期経営計画の基本方針である株主還元総額80億円以上、こちらに変更はございません。今期の配当金につきましては、期初計画の130円から15円増配し145円に修正いたします。これにより、今期の配当総額は22億円になる見込みです。

自己株式 91 万 4,000 株、金額としては 25 億円を取得し、これを含む 100 万株を消却しました。中期経営計画の数値目標について ROE は、化粧品材料事業の減損処理により一時的な経過を受けられないもの、来期 2027 年 3 月期の ROE8%達成に向け、あらゆる選択肢を排除せずに進める計画です。営業利益は、外部環境の変化や化粧品材料での収益拡大遅延による影響等を考慮し 2027 年 3 月期の計画について精査中で、2026 年 3 月期通期決算にて開始予定です。

化粧品材料事業における減損処理について

第3四半期に減損損失 24億円を計上

- 主力である日焼け止め材料において中国経済の鈍化等の影響により収益が悪化
- 中長期的には日焼け止め材料とメイク材料の両輪で拡大を目指す戦略であり、メイク材料向けマルチプラントの投資を実行中、次期中計（28.3期～）での収益貢献を見込んでいる。日焼け止め材料・メイク材料ともに、計画の達成可能性を保守的に見積もった結果、**製造設備すべてについて減損損失を計上**
- マルチプラントは2月竣工予定のため、第4四半期に3億円程度の追加計上を見込む
- 27.3期の減価償却費は1億円程度減少する見込み

現状認識

- ターゲット市場である紫外線カット材料は今後も成長していくと見込むが、足元では日焼け止めのトレンドはコスト重視。当社の得意とする高品質な無機系材料は伸び悩む
 - － 日焼け止め消費量の多い中国の消費者マインドの低迷、米国のインフレも影響
 - － 安価な有機系紫外線吸収剤の適用が増加
- さらなる落ち込みは想定しておらず、日中関係の悪化による直接的な影響も顕在化していない

数量増に向けた施策を急ピッチで進め、早期黒字回復を目指す



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

3

次に、化粧品材料事業における減損処理について説明します。

先ほど申しあげましたように、第3四半期に減損損失 24 億円を計上しました。化粧品材料事業の主力である日焼け止め材料において、中国経済の鈍化等の影響により収益が悪化しました。

当事業が中長期的には日焼け止め材料とメイク材料の両輪で拡大を目指す戦略であり、メイク材料向けマルチプラントの投資を実行中で、2028 年 3 月期からの次期中計での収益貢献を見込んでおります。日焼け止めとメイク材料ともに計画の達成可能性を保守的に見積もった結果、製造設備全てについて減損損失を計上しました。

マルチプラントは今年2月竣工予定のため、第4四半期に3億円程度の追加計上を見込んでおります。なお、この減損処理により、2027年3月期の減価償却費は、1億円程度減少する見込みです。

化粧品材料事業の現状認識ですか、ターゲット市場である紫外線カット材料は今後も成長していくと見込んでおりますが、足元では日焼け止めのトレンドはコスト重視になってきており、当社の得意とする高品質な無機系材料は伸び悩んでおります。ただ、更なる落ち込みは想定しておらず、日中関係の悪化による直接的な影響も顕在化しておりません。数量増に向けた施策を急ピッチで、早期黒字回復を目指します。

減損処理を受けての施策の見直し

黒字回復に向けた施策の見直し、スピードアップ

- 「化学でやさしい未来づくり」のミッションのもと、強みとする高度な粉体プロセッシング技術を結集した環境負荷および人体への負荷の小さい無機系材料を訴求する方針は維持
- 日焼け止めのトレンドに合わせて販売戦略の見直しを継続

① 海外市場への拡販

- ・ 開発から量産化されるまでの時間軸が短い**東南アジア地域や中国を中心に拡販**
- ・ 欧米大手メーカー向けに初めて採用された**超微粒子酸化亜鉛を中心に使用ブランドの展開促進**
- ・ 営業リソースは拡充済み、グループの堺商事の海外拠点や人材も活用中

② 市場ニーズの変化に応じたボリュームゾーンのラインナップ充実

- ・ 素材別市場シェアの高い安価な有機系紫外線吸収剤に対抗するため、採算性を検証しながら一定の価格見直しには適宜対応。ボリュームゾーンでも競争力を高める

③ 開発品、改良品での品質差別化、市場ポジション強化

- ・ 開発体制、生産体制の最適化を進め、タイムリーに市場投入

外部環境の変化および上記取り組みの進捗を考慮し、27.3期の計画について精査中



減損処理を受けて、化粧品材料事業の黒字回復に向けた施策の見直し、スピードアップを行っております。「化学でやさしい未来づくり」このミッションのもと、強みとする高度な粉体プロセッシング技術を結集した環境負荷および人体への負荷の小さい無機系材料を訴求していく方針は維持しながらも、日焼け止めのトレンドに合わせて販売戦略の見直しを継続していきます。

具体的な施策として、一つ目は海外市場への拡販。開発から量産化されるまでの時間軸が短い東南アジア地域や中国を中心に拡販を進めております。そして、欧米大手メーカー向けに初めて採用さ

れた超微粒子酸化亜鉛を中心に、使用ブランドの展開を促進しています。それら施策を行うための営業リソースは既に拡充済みで、グループの堺商事の海外拠点や人材も活用しております。

二つ目は、市場ニーズの変化に応じたボリュームゾーンのラインナップ充実。素材別市場シェアが高い安価な有機系紫外線吸収剤に対抗するため、採算性を検証しながら、一定の価格見直しには適宜対応していき、ボリュームゾーンでも競争力を高めていきます。

三つ目は、開発品、改良品での差別化、市場ポジションの強化。開発体制、生産体制の最適化を進めており、タイムリーに製品を市場へ投入していきます。なお、外部環境の変化および上記取り組みの進捗を考慮し、2027年3月期の計画について精査をしております。

2026年3月期 第3四半期決算サマリー

- 売上高は、電子材料を中心とした成長事業での売上高の増加はあったものの、効率化検討事業での販売数量の減少により、前年同期比3.5%減
- 営業利益は、電子材料が堅調に推移し、有機化学品における医薬品原薬中間体での販売構成差の改善や、その他事業での収益改善や販売数量増加が寄与し、前年同期比14.7%増

	25.3第3四半期累計		26.3 第3四半期累計		前年同期比	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	63,567	—	61,370	—	▲2,196	▲3.5
営業利益	4,679	7.4	5,367	8.7	688	14.7
経常利益	4,970	7.8	5,479	8.9	508	10.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,726	5.9	2,900	4.7	▲825	▲22.2
EPS	229円82銭		184円88銭			

外部要因		内部要因	
プラス面 ・半導体市場の復調	マイナス面 ・中国経済の長引く低迷 ・国内亜鉛市況の下落	プラス面 ・価格改定の浸透	マイナス面 ・高付加価値品の販売減 (化粧品材料)



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

5

続きまして、2026年3月期第3四半期の決算サマリーです。

売上高は、電子材料を中心とした成長事業での売上高の増加はあったものの、効率化検討事業での販売数量の減少が大きく、前年同期比で3.5%の減収となりましたが、営業利益は、電子材料が堅調に推移し、有機化学品における医薬品原薬中間体の販売構成差の改善、その他事業での収益改善、販売数量増加が寄与し、前年同期比14.7%の増益となりました。

今期第3四半期累計の売上高は、613億7,000万円、営業利益は53億6,700万円、経常利益は54億7,900万円、親会社株主に帰属する当期純利益は29億円となりました。

2026年3月期業績予想

- 売上高は、化粧品材料の落ち込みを電子材料やその他事業でカバーし、**期初計画通り**の見込み
- 利益面は、**化粧品材料事業の減損処理により、親会社株主に帰属する当期純利益を下方修正**
営業利益および経常利益は、**期初計画通り**となる見込み

	25.3		26.3					
			期初計画			修正計画		
	売上高比		売上高比		前期比	売上高比		前期比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%	%
売上高	84,409	—	86,000	—	1.9	86,000	—	1.9
営業利益	6,093	7.2	6,500	7.6	6.7	6,500	7.6	6.7
経常利益	6,279	7.4	6,500	7.6	3.5	6,500	7.6	3.5
親会社株主に帰属する当期純利益	5,013	5.9	5,500	6.4	9.7	3,000	3.5	▲40.2

外部要因（想定）		内部要因（想定）	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
・半導体市場 AI関連は好調に推移 車載関連は回復傾向	・中国経済低迷の長期化 ・国内建材関連の需要低迷	・修繕費の圧縮	・操業度の低下

* 米国相互関税政策による影響は軽微であるため、修正計画にも加味していない



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

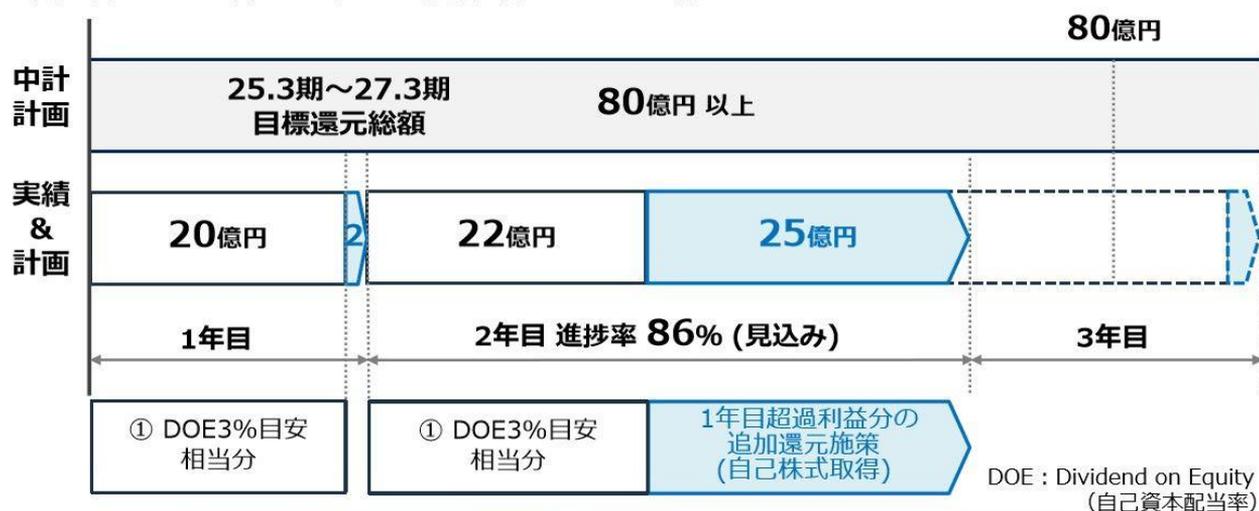
6

2026年3月期業績予想です。

売上高に関しましては、化粧品材料の落ち込みを電子材料やその他事業でカバーし、期初計画通りとなる見込みです。利益面に関しましては、化粧品材料事業の減損処理により、親会社株主に帰属する当期純利益を下方修正しましたが、営業利益および経常利益は期初計画通りとなる見込みです。なお、米国相互関税政策による影響は軽微であるため、修正計画にも加味しておりません。

株主還元

- 基本方針に変更なし（中計期間中に総額80億円以上の株主還元の実施）
 - ① 配当は「DOE 3%を目安」に安定配当を実施する
 - ② 業績推移や目標ROEも勘案し、配当増額や自己株式取得など追加施策を検討する
- 年間配当を130円から**145円**に増額（期末配当は期初計画比15円増の80円）
 総還元額は前期比2倍以上の**47億円**（自己株式取得**25億円**、配当**22億円**）
- 自己株式100万株を消却済み（今期取得分91.4万株を含む）



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

7

株主還元でございます。

冒頭で申し上げましたように、基本方針である中計期間中に総額 80 億円以上の株主還元を実施することに変更はございません。また、配当は DOE3%を目安に安定配当を実施すること、業績推移や目標 ROE も勘案し、配当増額や自己株式取得など追加施策を検討することこれらについても変更はございません。

化粧品材料セグメントで減損損失を計上したものの、その他のセグメントは堅調に推移していることや、キャッシュフローなどを総合的に勘案し、年間の配当金を 130 円から 145 円に増額いたします。今期の総還元額は前期比で 2 倍以上の 47 億円になる見込みでございます。また、自己株式 100 万株、これには今期取得した 91 万 4,000 株を含みますが、これを消却いたしました。

説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

司会 [M]：それではこれより質疑に入らせていただきます。会社名とお名前を頂戴した上で、ご質問いただきますようお願いいたします。

なお、本説明会については、書き起こしの記録をし、弊社ホームページに掲載させていただく予定です。もちろん会社名、お名前は伏せさせていただきますが、ご質問いただいた内容については記載されますので、その旨ご了承ください。

それでは、よろしく願いいたします。

質問者 [Q]：3点よろしく願いいたします。

一つ電子材料ですけれども、前年比で伸びてるんですが、クォーターを経るごとにというかサードクォーターは、1Q、2Qと比べるとちょっと出方としては悪いのかなという感じがありますので、これはもう何か下向きになっちゃってるのかどうか。この辺に関して今後の見方も含めて、この電子材料のクォーターベースのモメンタムに関してちょっとこれ教えてください。

大釜 [A]：はい。ありがとうございます。電子材料につきましてはご指摘いただいておりますように3クォーター、2クォーターに比べて売上落ちてるところになります。ただこれに関しましては、一時的に汎用品関係の在庫調整の影響を受けたと認識をしております。

コンデンサメーカーさんの決算なんか見てもやっぱり AI サーバー関連は堅調だというふうなお話でありまして、われわれもおそらくサーバー用に使われているであろう製品ラインナップに関しましては落ちておらず、むしろ好調でございます。

足元に関しましては、3クォーターからは回復してくると見ております。足元既に4クォーターのハーフぐらいにきつつありますけれども、モメンタムとしては悪くない状況にあるというところでございます。

質問者 [Q]：4Q は一般的には旧正月とかでちょっと季節的に落ち込みやすいんですが、今年は4Qの方が3Qよりも出るということでいいですか。あと来年度は結構伸びそうなんですか。

大釜 [A]：はい、来年度に関しましては、今まさに計画を策定中でございますが、コンデンサ市場の動向を見てますと、今年度で、前年比で大体10%弱ぐらい伸びているような統計のデータも見ておりますし、やはり来年度に関しましても引き続きわれわれの誘電体材料、誘電体ともに伸びて

いくのは想定しております。数字に関しましては、予算を策定しましたら開示させていただきます。

質問者 [Q]：4Q は3Q 比で伸びるとそういうことでいいんですね。

大釜 [A]：はい、そこから回復しておりますのでその見立てで結構です。

質問者 [Q]：わかりました。二つ目は化粧品材料ですが、以前も減損して今回も減損ですかね。今回はこれメイク材料も減損、今作ってるやつも出来次第減損、それに関して補足してください。

大釜 [A]：これは、まさに2月今月竣工予定というところを減損するのかというところがあるかと思えます。こちらに関しましては元々収益に貢献するのは次の中計からで、2028年3月期以降ということであるんですけれども、現時点において当初計画を立てたところから、足元の需要動向等を勘案しまして、ある程度保守的に計画を見ました結果、減損するというようなところに判断に至ったところでございます。

ここに関して以前も、減損したというところをご指摘の通りでありまして、この辺に関しては非常に受けとめているところでございます。

質問者 [Q]：これで減損した上で化粧品材料の設備、有形固定資産はどれぐらい残るんですか。その規模としては。

大釜 [A]：もうほとんど残らない理解で結構です。

質問者 [Q]：もう全額減損に近い、そういうことでいいんですね。

大釜 [A]：はい。

質問者 [Q]：マルチプラントでも3億円の追加計上ということは、3億円分しかないということですか。

大釜 [A]：いやこれまで建設仮勘定で残ってますんで、これ完工した段階でも少し出てくる。

質問者 [Q]：でも2月にその建設仮勘定は全て有形固定資産に変わるんじゃないんですか。

大釜 [A]：12月時点ではまだだったということですね。3クォーターになっていると。

質問者 [Q]：いずれにしろこのマルチプランとも含めて全て。もうほぼ全額減損してしまうということなんですね。

大釜 [A]：そのご理解で結構です。

質問者 [Q]：わかりました。ちょっとすいません。元々海外の顧客向けに伸びるという話がありましたね。日焼け止め材料はですね。それは結局あんまり伸びてないという、そういう認識でよろしいですか。

大釜 [A]：はい。これ採用は既にされてまして、徐々に増えてるんですが、まだ計画どおりほどは伸びてない、お客様の方での使用ブランド展開はちょっと遅れているところがございます。だから計画からは少しビハインドしてるところです。

質問者 [Q]：わかりました。最後3点目、今回触媒がかなり増えてるんですけども、これは一過性ですか。多分4Qは落ちるってことだと思うんですが、来年度もこの触媒に関して、今年多分5億円ぐらい営業利益出てくると思うんですが、これは来年度どれぐらいになると考えておけばいいのか、これをお願いいたします。

大釜 [A]：ありがとうございます。第3クォーターに関しまして、一過性の要因が入っております。利益が出るということがございますので、これは一過性ですが、コロナで取り組んでました生産拠点の集約、効率化とか一巡しまして、あと稼働も順調に伸びてきているところがございますので、2クォーター以降ぐらいの収益といいますか、それぐらいは想定ができるというところがございます。

第1クォーターまで非常に苦しかった状況ではあるんですけど、2クォーターぐらい以降の3クォーターもちょっとイレギュラーなので、なかなか難しいところなんです。そういうふうにお考えいただければいいかなと。

質問者 [Q]：来年度は年間ではより触媒を出せるということでもいいですか。今年が多分5億円とかですかね。

大釜 [A]：そこまでいくかどうか、4クォーターに関しては、触媒だけではなくて、一定程度酸化チタンの生産が終了しましたんで、少し負担が増えるところもありますので。

質問者 [Q]：来年度、26年度に一過性のものがなくなると来期結構減っちゃうってことになるのか。それともある程度、今年ぐらい出せるのか。

大釜 [A]：それはもう今年ぐらい出せるようになる。

質問者 [M]：わかりました。了解です。

大釜 [M]：これは決まりましたら開示させていただきます。

質問者 [M]：わかりました。ありがとうございました。

司会 [M]：どうもありがとうございました。その他ご質問、いかがでしょうか。

その他ご質問ないようでございますので、少しお時間早いですがこれにて終了とさせていただきます。よろしいでしょうか。本日はどうも貴重なお時間いただきありがとうございました。

大釜 [M]：ありがとうございました。

司会 [M]：引き続きよろしくお願いいたします。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

免責事項

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。また、化学事業のサブセグメントの数値は任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。